



心豊かで元気な「静里っこ」北部小

問 特別養護老人ホームの入所希望が多く、まだ待機者が解消されない状況だが、施設整備計画はどのように考えているのか。

答 待機者緩和を図るため地域密着型小規模特別養護老人ホームを24年度から各1カ所ずつ3カ所開設予定である。24年度には小規模多機能施設、25年度には認知症グループホームを1カ所ずつ建設予定である。

教育行政に対する市長の取り組みについて

問 マニフェストに少人数学級等のことが掲げられているが、24年度はどの

ように取り組んでいくのか。

答 少人数学級や通常学級において支援が必要な児童生徒に対する支援、外国籍児童生徒指導、教育相談事業等は学校教育充実には必要なものばかりであり、十分検討し考えていきたい。

広中昇平(市政クラブ)

新市長マニフェストにある公共施設建て替えの考えは

問 現在、小中学校の統廃合が検討されている中、老朽化している公共施設の建て替え時期が重なっている。学校跡地に複合施設としての建て替えも有効と考

答 いずれかの小中学校が統廃合がされれば、その跡地が建設候補地として挙がる可能性がある。しかし、用地確保のために統廃合が議論されるべきではないと考えており、教育委員会の検討を注視していき

問 小中学校のプールは絶対になくはならない施設である。市民プール建



三谷中学校で開かれている水泳大会

問 設よりもこちらに優先的に予算配分すべきと思うが、市の考えはどのようなか。

答 昭和40年代に建設したものが多く、老朽化が進んでいる。改修は市民水泳大会が開かれる三谷中学校を一番とし、他の学校は、順次計画的に進めていく。

大竹利信(公明党)

不育症について

問 妊娠をしても流産や死産を繰り返す、子どもが持てない不育症への相談窓口の設置や治療費の助成

答 妊娠をしても流産や死産を繰り返す、子どもが持てない不育症への相談窓口の設置や治療費の助成

について市の考えはどうか。

答 現在、本市では不育症の相談はほとんどないが、あった場合は保健師が個別に対応していきたい。治療費助成は、本市では行っていない。当面は不育症の認識を広める周知を図っていき

「持続可能な開発のための教育」の普及促進を

問 ユネスコスクールに登録すると国内外のユネスコスクールと交流を持つ機会が得られる。本市の参加についての考えを伺う。

答 県開催予定の研修会等で情報を得て、十分に検討して学校現場に伝えていきたい。助成金交付等の支援策等も注視していく必要があると考

青山義明(無所属の会)

企業用地の造成は

問 市内に5つある企業用地候補地に、企業が名乗りを上げた場合、すぐに

県は造成にに応じてくれるか。

答 進出する企業の購入意欲が高ければ、可能性はあると考

他市における人間ドック事業について

問 黒字運営している西尾幡豆医師会健康管理センターと本市との違いは。

答 本市では週3日開設で、1日当たりの受診者上限数が平日25人、土曜日30人である。22年度の受診者数は2909人である。西尾では、週6日開設で、受診者数は企業健診も含め1日当たり50人から60人、年間1万4600人ほどで、うち人間ドック受診者は約9300人である。大きな違いとして、自動車産業関連の健康保険組合からの大口の申し込みがある。

大場康議(市政クラブ)

介護施設入所における待機者対策は

問 介護施設待機者への対策について伺う。